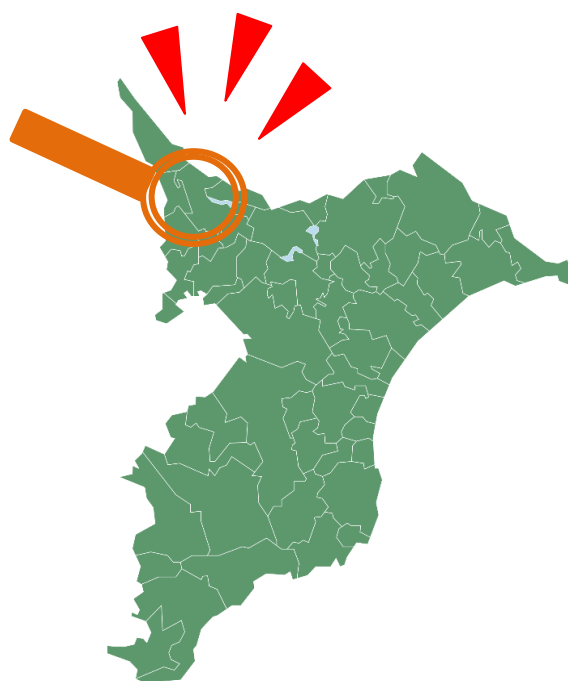


2022・3

柏の景気情報

令和4（2022）年3月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

T E L : 04-7162-3305

F A X : 04-7162-3323

U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E - m a i l : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和4年3月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

調査期間: 令和4年3月25日～4月3日 調査対象: 柏市内157事業所及び組合にヒアリング、回答数112

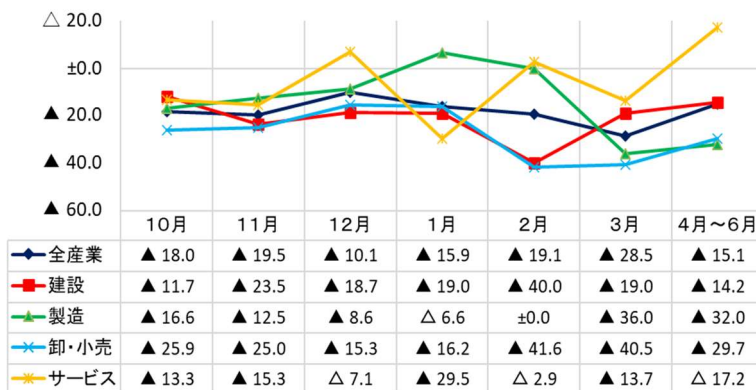
全産業DIは3か月連続で悪化。まん延防止等重点措置の解除で人の動きが増加し持ち直しの期待はあるも、先行き警戒感強い

3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28.5(前月水準▲19.1)となり、マイナス幅が9.4ポイント拡大した。

半導体や原材料に加え、光熱費の大幅な高騰により利益確保が難しい製造業や、まん延防止等重点措置で飲食店やイベント関連、ホテルなどの業況感が悪化。一方、重点措置の解除で人の動きの活発化が見られ、小売店の業況感は改善。コロナにロシア・ウクライナ情勢が加わり、幅広い業種で円安やコスト増加の影響が出ている。

先行きDIは▲15.1(今月比+13.4)と改善を見込む。重点措置が解除となり、人の動きが増加することによる持ち直しへの期待はあるも、警戒感強い。

柏の景気情報・産業別業況DI



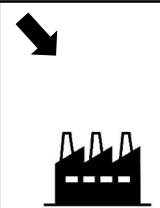
★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「技術者が不足」(一般土木建築)、「新年度を控え、発注が減少」(土木)、「鉄筋が大きく値上がり、残土処分や、生コンの単価も上昇。4月から取引先に値上げを頼まざるをえないが、反映されるか不安」(とび)、「建設業界はアスベスト問題の影響が大きく、補助金等のサポートがほしい。以前より解体・改修工事調査の処理費用や工期が掛かってしまう」(塗装)、「原油高で、畳材料の仕入価格も上昇。いつまで続くのか…」(畳)



製造業

「半導体不足、資源・燃料価格高騰に紛争問題と中国のゼロコロナ政策が追加され、先行きが見通せない」(機械・同部品)、「コロナとロシアのウクライナ侵攻で、原油価格が高騰し、プラスチック原料が今までになく値上がりしている」(プラスチック成型)、「原料、光熱費が上昇し利益を圧迫し始めている。国内観光が活発になれば売上に期待ができる。製品に価格転嫁しにくい状況は変わらない」(鉄鋼)、「紙の値上がりで売上額の伸び悩みで、苦しい年度末だった」(印刷)、「材料仕入価格の上昇が止まらない。売値の値上げが認められた矢先から材料の値上げがあり、利益確保が困難」(金属製品)、「コロナに加えロシア・ウクライナ紛争で、今後更に燃料費や電気料金の値上げが懸念される。DX等、生産性向上策を行うが、コストアップに追い付かない。先行きが見通せない状況の中、賃上げは厳しい」(自動車付属品)、「注文を受けても装置関連部品の納期が半年以上先。納品できないため入金が無く、現状は全て持ち出し状態」(検査装置・光学・機械設計)



卸・小売業

「まん延防止等重点措置の解除後は客数増加。外出を連想させる物(お出掛け着、靴、バック等)の動向が良い。ネットスーパーは好調を維持していたが、人の外出が増え鈍化。SDGs関連の商品を強化しており、一定数のお客様には支持を得ている」(大型小売店)、「活気は戻ったが、飲食関連は原材料の値上がりで厳しい。客足が戻ったところへ値上げはしたくない」(各種商品小売)、「ひな祭りの売上が前年比増」(洋菓子店)、「ディナー需要の回復が遅い。コロナ後の消費構造変化やSDGsに対応した事業展開、エリアにおける施設役割の再構築を検討している」(各種商品小売)、「仕入価格の高騰で適正な利益が取りづらい。電気料の上昇も顕著で利益を圧迫。円安・ドル高による物価上昇の懸念も悩ましい」(各種食料品小売)、「コロナで輸出先の国がロックダウンや輸入規制を敷いており輸出台数が激減。半導体不足による新車納期の大幅遅延や中古自動車相場の高騰が継続、港湾費用及び船賃の高騰によりコストプッシュインフレが業界を襲っている」(自動車卸売)、「円安による輸入水産物のコスト上昇で、荷動き鈍化を懸念。重点措置の解除で外食需要に期待したが、思ったほど良くない」(水産物卸売)



サービス業

「まん延防止等重点措置の影響で売上減少が続く。感染者数も高止まりで客足の戻りが鈍い。感染者数減少に期待」(日本料理)、「入居者の入れ替えに伴う設備、資材を含むリフォーム代の上昇を懸念」(不動産賃貸・管理)、「コロナの影響でイベント&レンタル業がゼロ」(不動産代理・仲介)、「ちばSDGsパートナーへ登録。当社HPにも掲載」(ビルメンテナンス)、「環境展典並びに大気汚染装置の更新助勢などアドバイザー的業務で現況は安定(工場機械設置の営業支援)」、「昨年10月から2年間続いた50%減の状況から回復の兆しを見せるが、4月の見込み数が鈍化している気がする」(室内装飾業)

★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲28.5に対し、「CCI-LOBO」が▲32.7で柏の方がマイナス幅が4.2ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸・小売業、サービスであり、サービス業は20ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業である。

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(3月速報)

調査期間：2022年3月15日～22日

調査対象：全国の331商工会議所が2,559企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、持ち直しの動き。先行きは、コスト増への警戒感強く慎重な見方

3月の全産業合計の業況DIは、▲32.7と、前月から+1.2ポイントの改善。新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴う巣ごもり需要による日用品などの売上が増加した小売業や、飲食料品関連の卸売業の業況感が改善した。一方、18都道府県におけるまん延防止等重点措置が延長され、営業制限やイベントの中止が続く中、観光関連や対面サービス業を中心に売上が低迷するほか、製造業では、慢性化する部品供給制約に伴う生産調整の影響を受けた自動車関連の動きが押し下げ要因となっている。業種を問わず、原油価格を含む資源・資材価格、原材料費の高騰などのコスト増加が収益回復の足かせとなっており、中小企業の景況感

は、持ち直しの動きがみられるものの、力強さを欠く。先行きについては、先行き見通しDIが▲28.8（今月比+3.9ポイント）と改

善を見込む。まん延防止等重点措置の全面解除に伴う客足や消費の回復、国・自治体による需要喚起策への期待感が伺える。一方、部品の供給制約、資源価格の高騰が継続し、コスト増加分の価格転嫁が遅れる中、ウクライナ情勢悪化に伴い、円安やコスト増がさらに加速するとの懸念から警戒感が強まり、中小企業の先行きは慎重な見方が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、製造業が悪化、建設業は横ばい、その他の業種で改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「店舗の工事受注により売上は改善したものの、部材の納期遅れに伴う工期長期化や鋼材などの建築資材価格の上昇が続いており、厳しい状況」（一般工業業）、「民間設備投資が停滞しており、受注は減少。また、

地域の公共工事の入札も競争が厳しく、売上確保に苦慮している」（管工事業）

【製造業】「半導体や海外からの部品不足による国内自動車メーカーの生産調整が続いており、受注が回復してこない。世界的な脱炭素化の流れにより、電気自動車への転換が進んでおり、内燃機関の開発や新規案件が減少している」（自動車部品製造業）、「土産物の需要が戻らない中、小麦粉などの原材料価格の上昇を吸収しきれない状況となっており、来月より商品の値上げを実施する予定」（菓子製造業）

【卸売業】「売上は堅調に推移しているが、原油や銅価格の上昇による電線などの製品の仕入価格が大幅に上昇しており、販売価格への転嫁を取り先と交渉している」（一般機械器具卸売業）、「消費者への直売や価格転嫁の取り組みの成果もあり、売上は維持している。ただし、先行きについてはロシアによるウクライナ侵攻に伴いロシア産の冷凍魚の輸入が困難になると見込んでおり、さらなる仕入コスト上昇を懸念している」（水産物

卸売業

【小売業】「食料品の売上が堅調に推移し、業況は改善。ただし、先行きの感染状況に伴う来店客数など不透明な部分が多く、手探りで営業している」（総合スーパー）、「欧州のメーカーを中心に入荷が滞っている。春の新生活シーズンを迎える、筆記用具の需要が高まる時期に商品不足となり、販売機会の損失が生じている」（文房具小売業）

【サービス業】「前年同月に比べ、学生をはじめとした来客が増えており、業況は改善。原油高に伴い仕入商品の一部が値上げされるため、今後の採算悪化を懸念している」（公園・遊園地）、「例年開催されるマラソンイベントの中止や歓送迎会などの需要が低迷し、売上の減少が続いている。光熱費や小麦粉、食用油などの値上げもあり、経営環境はますます厳しくなっている」（飲食業）









全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
10月	▲28.9	▲22.1	▲14.7	▲32.1	▲42.2	▲34.8
11月	▲21.1	▲18.2	▲13.7	▲20.8	▲35.2	▲18.9
12月	▲15.8	▲16.3	▲9.3	▲11.6	▲30.0	▲12.5
1月	▲18.2	▲21.5	▲6.9	▲18.1	▲26.7	▲20.4
2月	▲33.9	▲22.9	▲21.1	▲38.2	▲43.8	▲43.2
3月	▲32.7	▲23.6	▲25.0	▲33.3	▲40.9	▲39.0
見通し	▲28.8	▲26.7	▲24.4	▲37.3	▲36.2	▲24.7

今月の柏の景気天気図

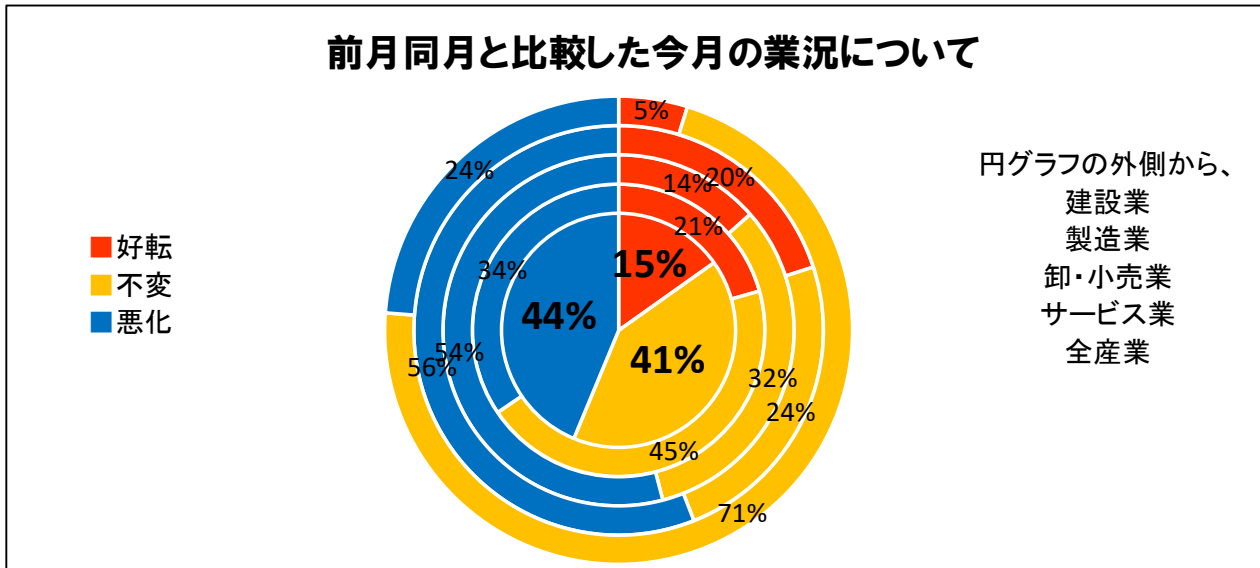
柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 28.5	 ▲ 19.0	 ▲ 36.0	 ▲ 40.5	 ▲ 13.7
CCI-LOBO	 ▲ 32.7	 ▲ 23.6	 ▲ 25.0	 ▲ 40.9	 ▲ 39.0
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 10.7	 ▲ 14.2	 ▲ 16.0	 ▲ 2.7	 ▲ 13.7
CCI-LOBO	 ▲ 23.2	 ▲ 22.0	 ▲ 11.7	 ▲ 33.9	 ▲ 30.1
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 21.4	 ▲ 28.5	 ▲ 32.0	 ▲ 21.6	 ▲ 6.8
CCI-LOBO	 ▲ 34.7	 ▲ 26.7	 ▲ 29.5	 ▲ 40.9	 ▲ 41.0
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 56.2	 ▲ 47.6	 ▲ 84.0	 ▲ 54.0	 ▲ 41.3
CCI-LOBO	 ▲ 65.3	 ▲ 78.9	 ▲ 74.9	 ▲ 57.5	 ▲ 52.6
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 13.3	 14.2	 16.0	 10.8	 13.7
CCI-LOBO	 16.6	 30.7	 13.1	 14.5	 15.0
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 14.2	 ▲ 23.8	 ▲ 8.0	 ▲ 18.9	 ▲ 6.8
CCI-LOBO	 ▲ 20.7	 ▲ 8.7	 ▲ 18.2	 ▲ 25.9	 ▲ 28.0

令和4年（2022年）3月の動向

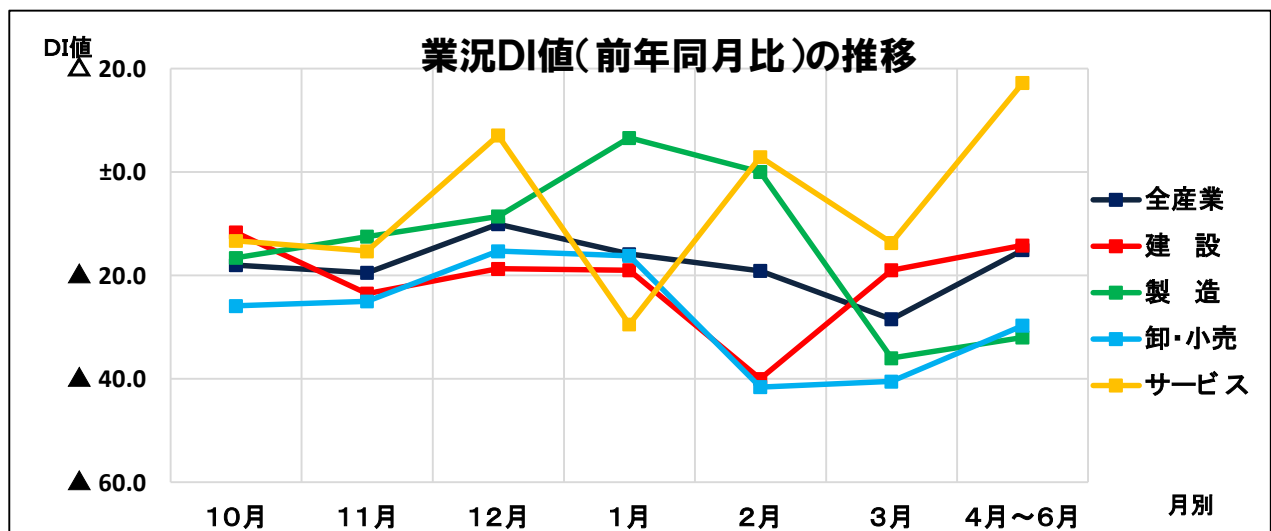
【業況について】

- 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28.5（前月水準▲19.1）となり、マイナス幅が9.4ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月（4月から6月）の先行き見通しについては、全産業では、▲15.1（前月水準▲13.0）となり、マイナス幅が2.1ポイント拡大する見通しである。



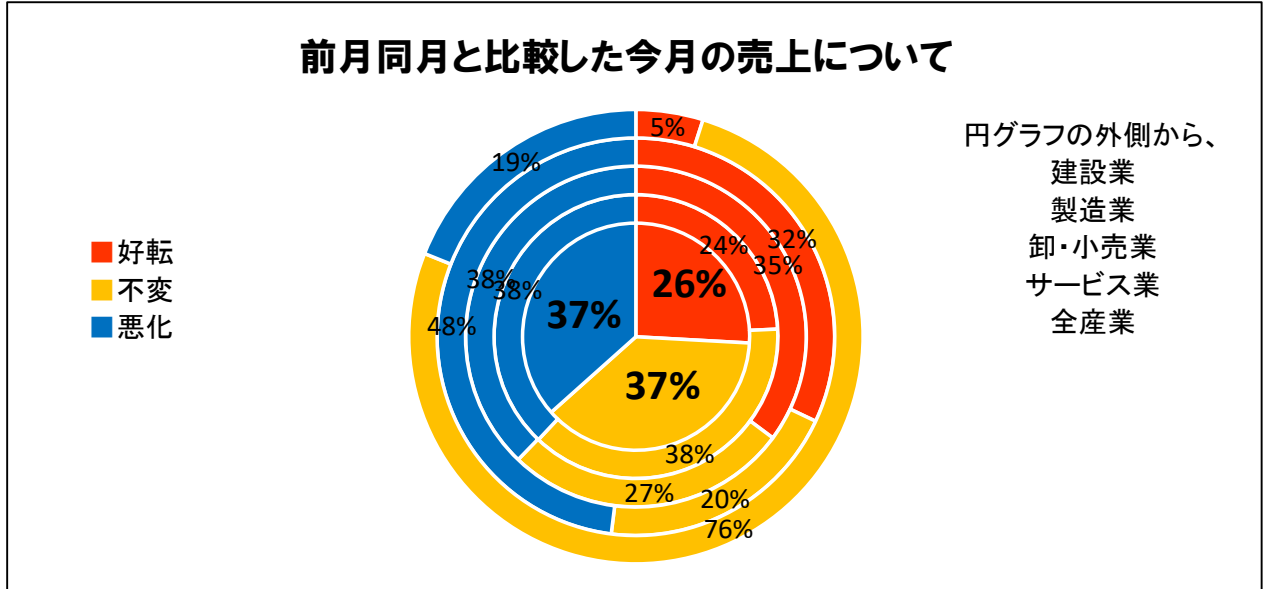
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和3年			令和4年			先行き見通し
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月～6月（3月～5月）
全産業	▲18.0	▲19.5	▲10.1	▲15.9	▲19.1	▲28.5	▲15.1（▲13.0）
建設	▲11.7	▲23.5	▲18.7	▲19.0	▲40.0	▲19.0	▲14.2（▲15.0）
製造	▲16.6	▲12.5	▲8.6	△6.6	±0.0	▲36.0	▲32.0（▲12.0）
卸・小売	▲25.9	▲25.0	▲15.3	▲16.2	▲41.6	▲40.5	▲29.7（▲52.7）
サービス	▲13.3	▲15.3	△7.1	▲29.5	△2.9	▲13.7	△17.2（△29.4）



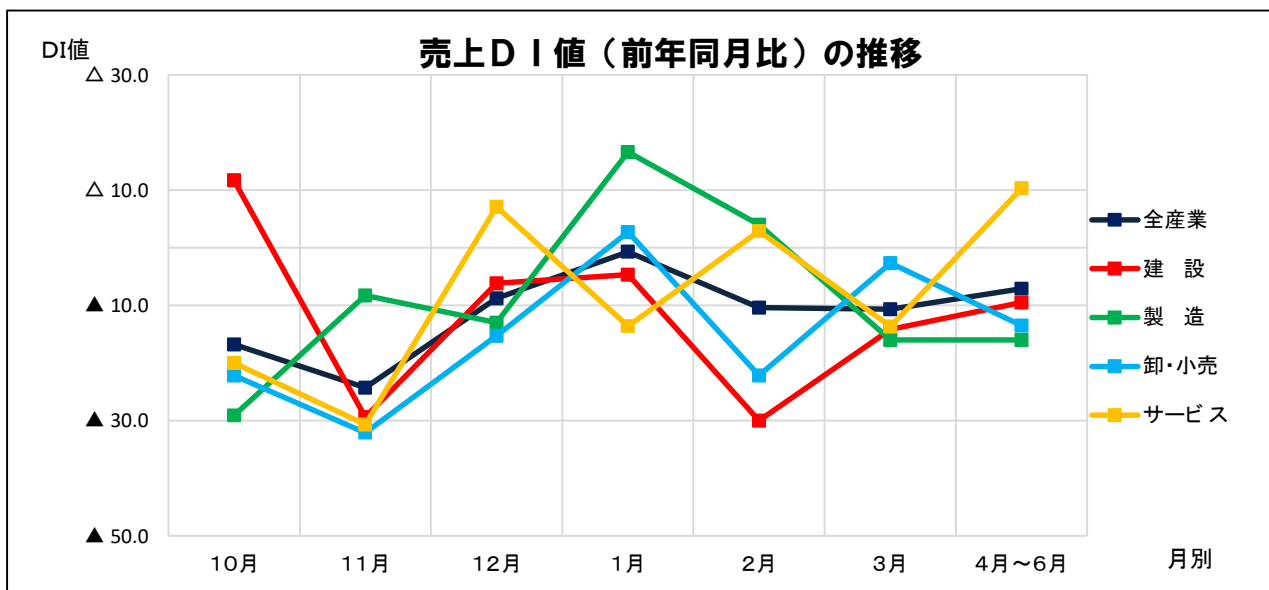
【売上について】

- 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.7(前月水準▲10.4)となり、マイナス幅が0.3ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲7.1(前月水準▲4.3)となり、マイナス幅が2.8ポイント拡大する見通しである。



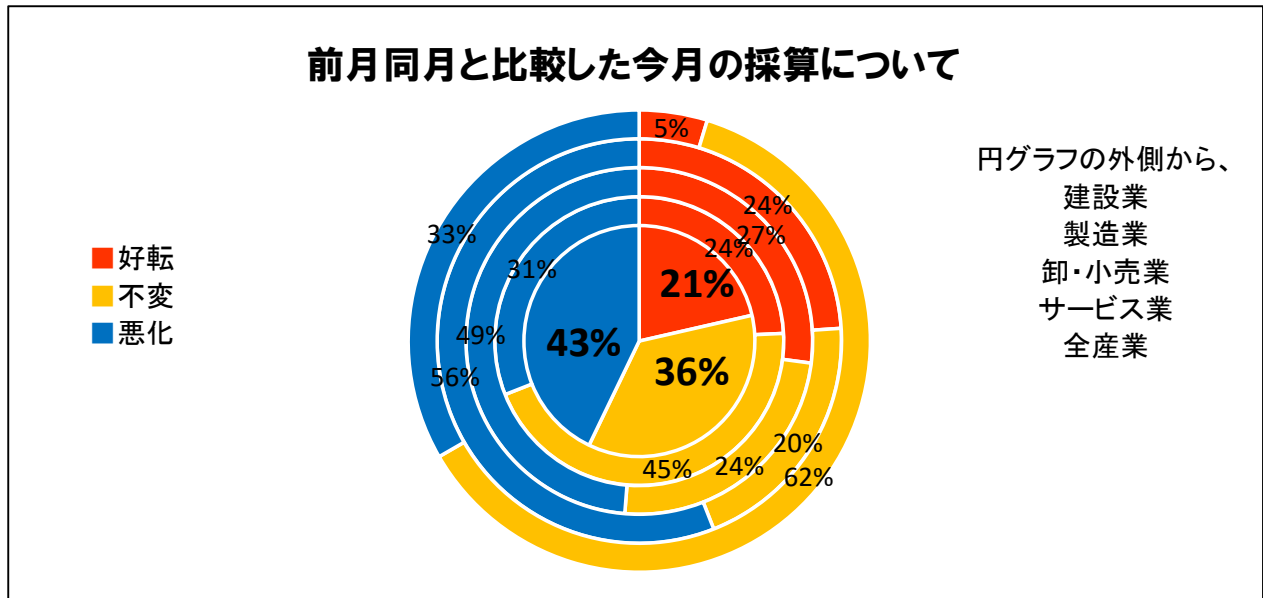
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和3年			令和4年			先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
全産業	▲16.8	▲24.3	▲8.8	▲0.7	▲10.4	▲10.7	▲7.1(▲4.3)
建設	△11.7	▲29.4	▲6.2	▲4.7	▲30.0	▲14.2	▲9.5(△5.0)
製造	▲29.1	▲8.3	▲13.0	△16.6	△4.0	▲16.0	▲16.0(±0.0)
卸・小売	▲22.2	▲32.1	▲15.3	△2.7	▲22.2	▲2.7	▲13.5(▲38.8)
サービス	▲20.0	▲30.7	△7.1	▲13.6	△2.9	▲13.7	△10.3(△23.5)



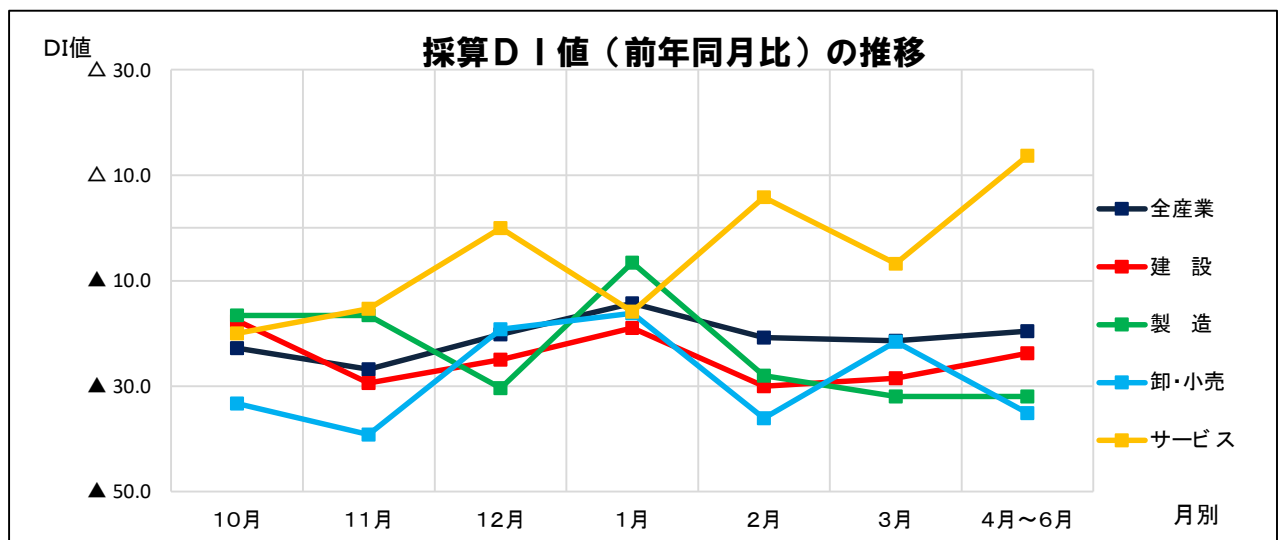
【採算について】

- 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.4(前月水準▲20.8)となり、マイナス幅が0.6ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲19.6(前月水準▲21.7)であり、マイナス幅が2.1ポイント縮小する見通しである。



採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

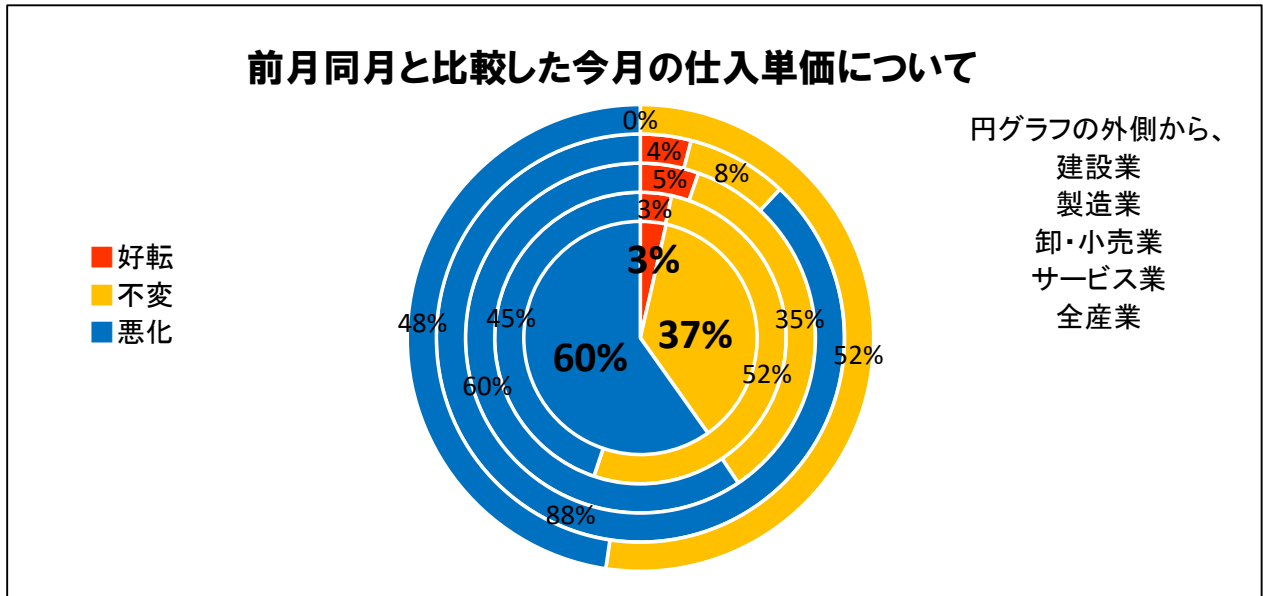
	令和3年			令和4年			先行き見通し
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月~6月(3月~5月)
全産業	▲22.8	▲26.8	▲20.2	▲14.3	▲20.8	▲21.4	▲19.6(▲21.7)
建設	▲17.6	▲29.4	▲25.0	▲19.0	▲30.0	▲28.5	▲23.8(▲10.0)
製造	▲16.6	▲16.6	▲30.4	▲6.6	▲28.0	▲32.0	▲32.0(▲20.0)
卸・小売	▲33.3	▲39.2	▲19.2	▲16.2	▲36.1	▲21.6	▲35.1(▲61.1)
サービス	▲20.0	▲15.3	±0.0	▲15.9	△5.8	▲6.8	△13.7(△11.7)



【仕入単価について】

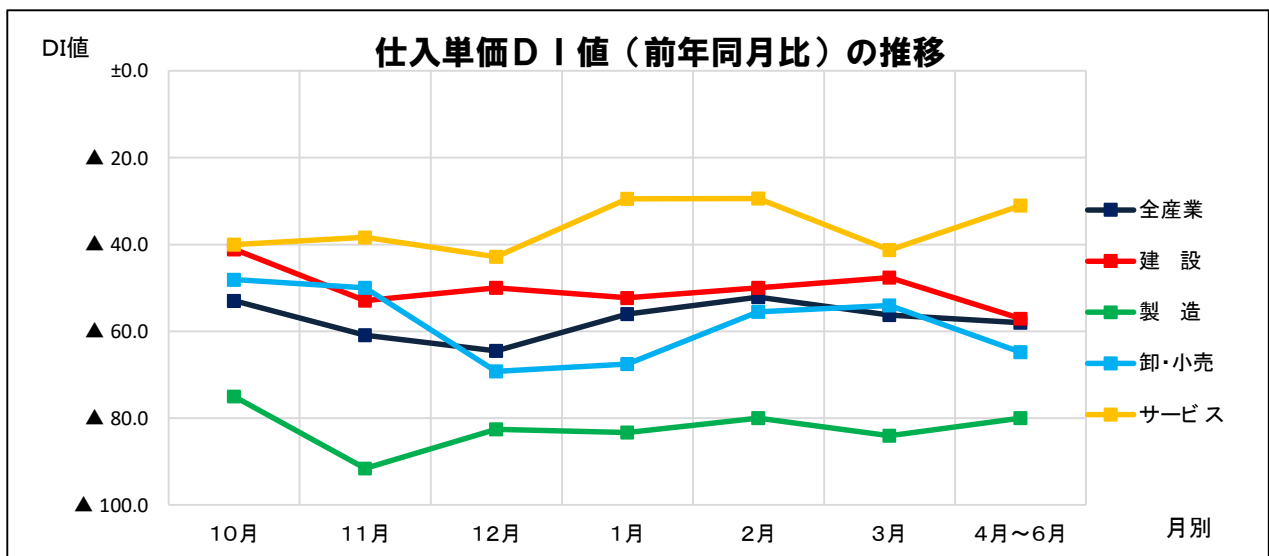
○ 3月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲56.2(前月水準▲52.1)となり、マイナス幅が4.1ポイント拡大した。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲58.0(前月水準▲55.6)となり、マイナス幅が2.4ポイント拡大する見通しである。



仕入単価D I値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

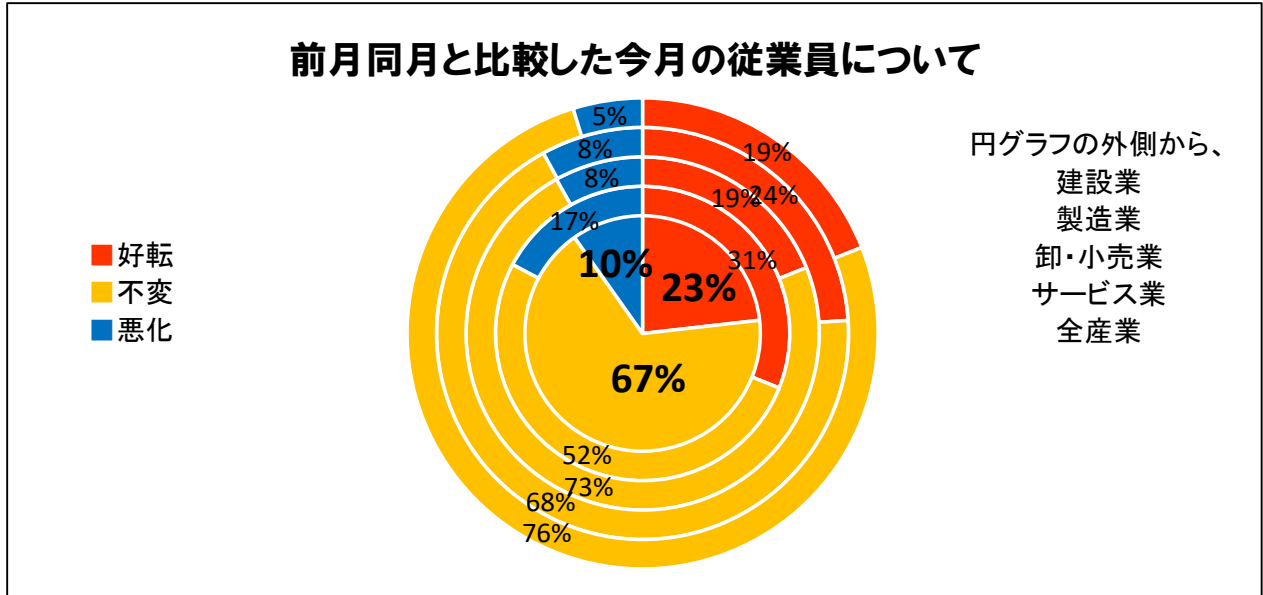
	令和3年			令和4年			先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
全産業	▲53.0	▲60.9	▲64.5	▲56.0	▲52.1	▲56.2	▲58.0(▲55.6)
建設	▲41.1	▲52.9	▲50.0	▲52.3	▲50.0	▲47.6	▲57.1(▲55.0)
製造	▲75.0	▲91.6	▲82.6	▲83.3	▲80.0	▲84.0	▲80.0(▲80.0)
卸・小売	▲48.1	▲50.0	▲69.2	▲67.5	▲55.5	▲54.0	▲64.8(▲69.4)
サービス	▲40.0	▲38.4	▲42.8	▲29.5	▲29.4	▲41.3	▲31.0(▲23.5)



【従業員について】

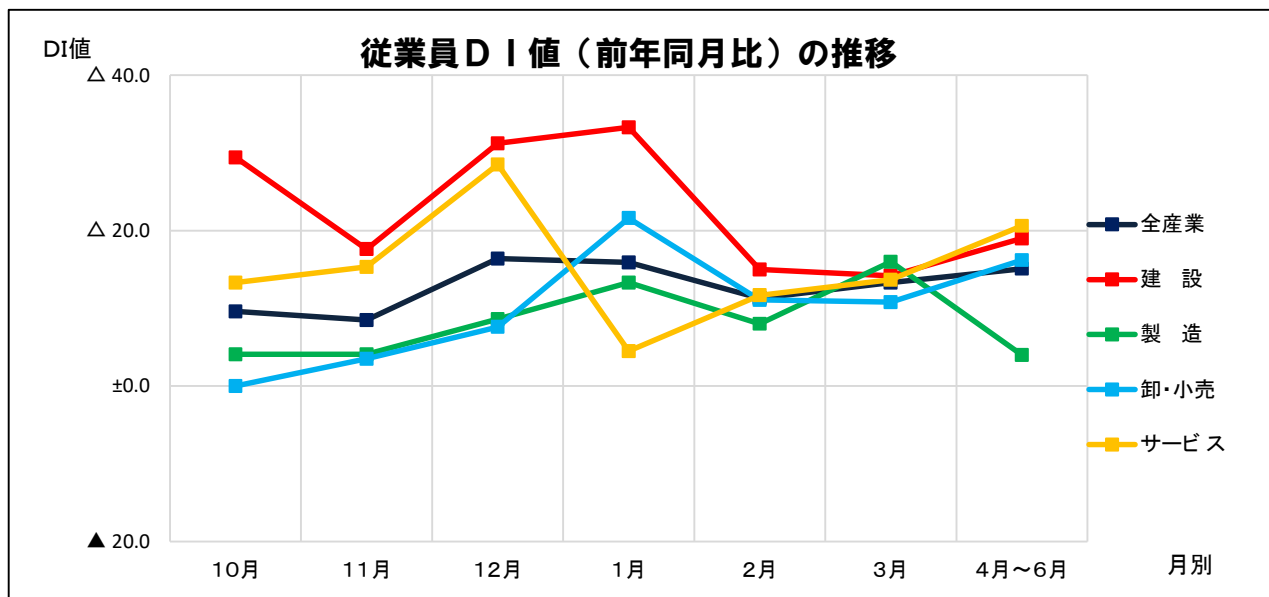
○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△13.3(前月水準△11.3)となり、プラス幅が2.0ポイント拡大した。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、△15.1(前月水準△14.7)となり、プラス幅が0.4ポイント拡大した。



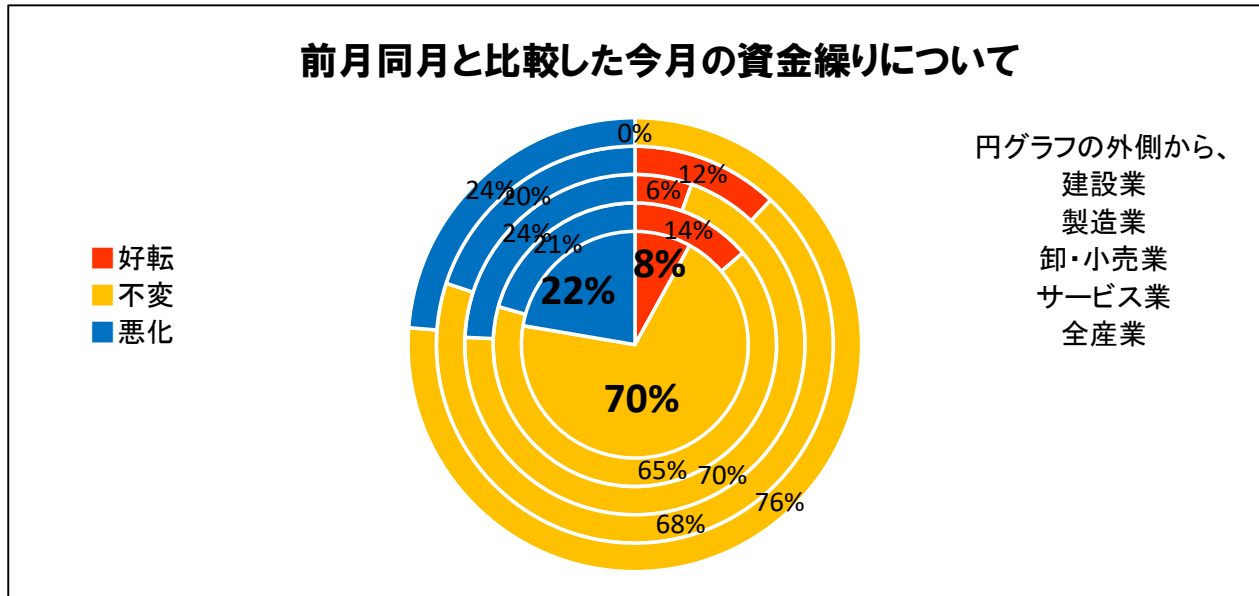
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和3年			令和4年			先行き見通し
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月~6月(3月~5月)
全産業	△9.6	△8.5	△16.4	△15.9	△11.3	△13.3	△15.1(△14.7)
建設	△29.4	△17.6	△31.2	△33.3	△15.0	△14.2	△19.0(△15.0)
製造	△4.1	△4.1	△8.6	△13.3	△8.0	△16.0	△4.0(△8.0)
卸・小売	±0.0	△3.5	△7.6	△21.6	△11.1	△10.8	△16.2(△13.8)
サービス	△13.3	△15.3	△28.5	△4.5	△11.7	△13.7	△20.6(△20.5)



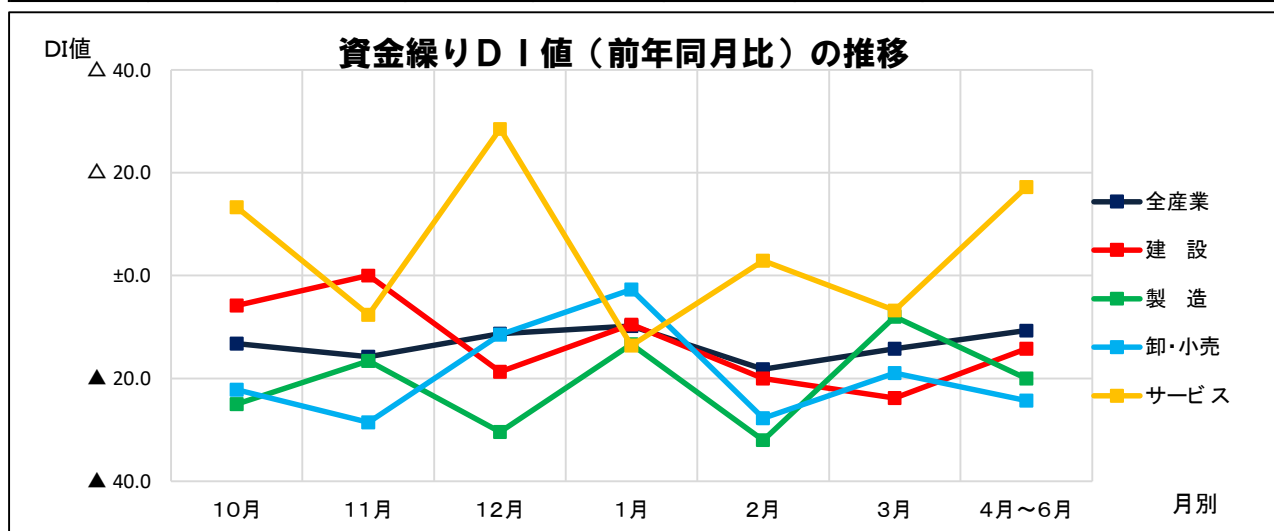
【資金繰りについて】

- 3月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.2(前月水準▲18.2)となり、マイナス幅が4.0ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲10.7(前月水準▲14.7)となり、マイナス幅が4.0ポイント縮小する見通しである。



資金繰りD I値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和3年			令和4年			先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
全産業	▲13.2	▲15.8	▲11.3	▲9.8	▲18.2	▲14.2	▲10.7(▲14.7)
建設	▲5.8	±0.0	▲18.7	▲9.5	▲20.0	▲23.8	▲14.2(▲15.0)
製造	▲25.0	▲16.6	▲30.4	▲13.3	▲32.0	▲8.0	▲20.0(▲32.0)
卸・小売	▲22.2	▲28.5	▲11.5	▲2.7	▲27.7	▲18.9	▲24.3(▲30.5)
サービス	△13.3	▲7.6	△28.5	▲13.6	△2.9	▲6.8	△17.2(△14.7)

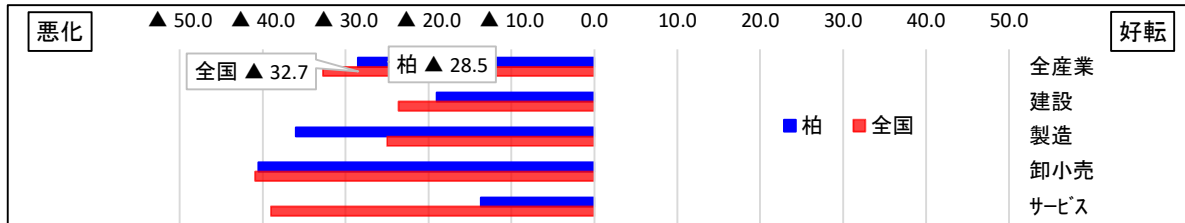


全国（CCI-LOBO）との比較

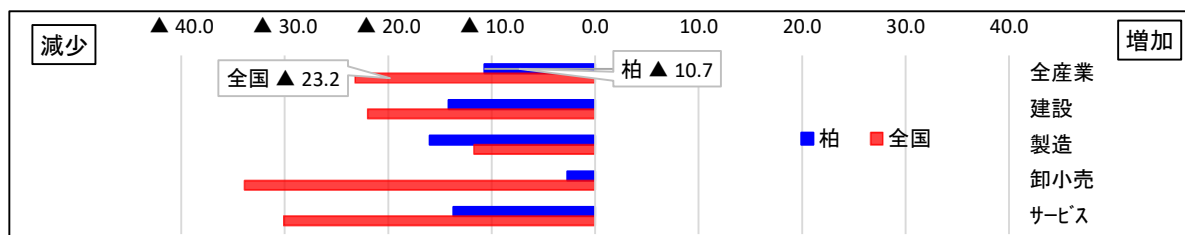
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

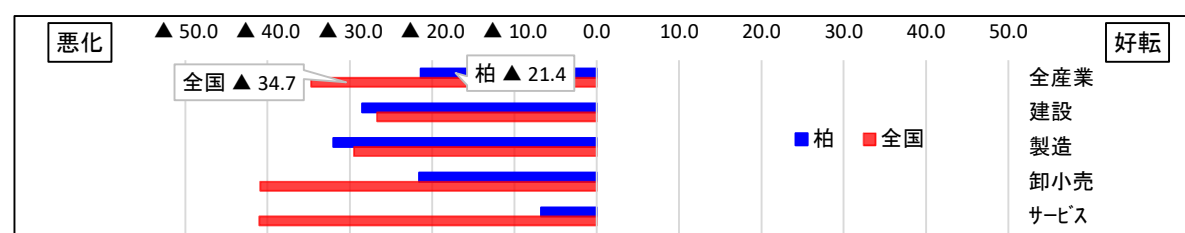
【業況DI】



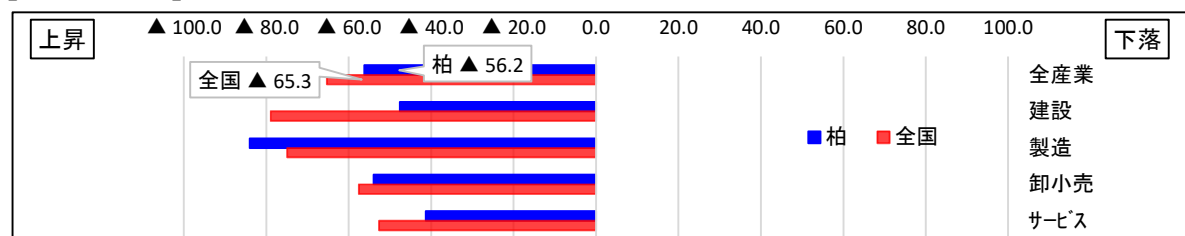
【売上DI】



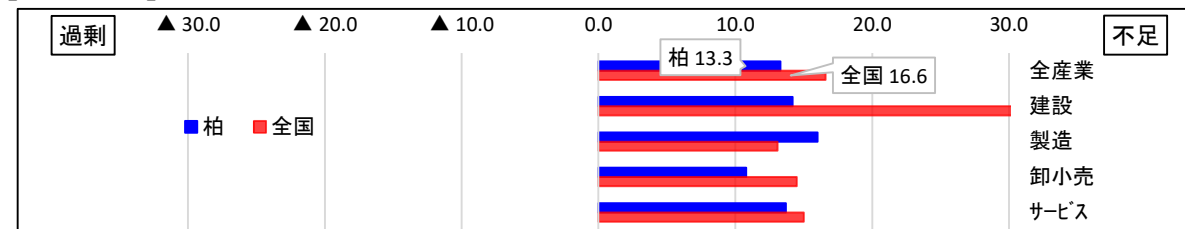
【採算DI】



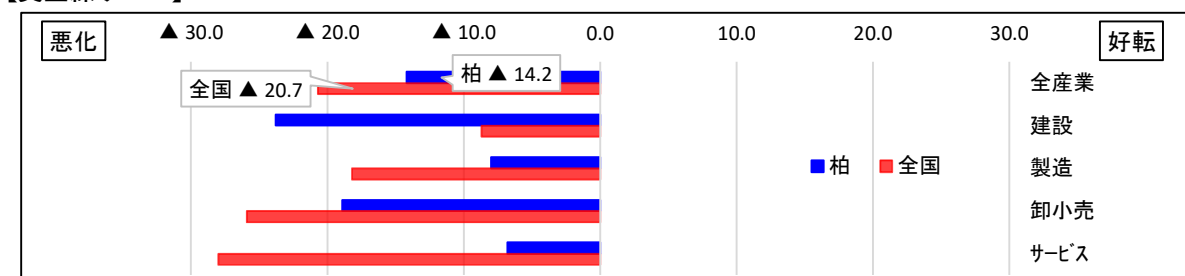
【仕入単価DI】



【従業員DI】



【資金繰りDI】



【業種別】業界内トピックス

業種別	概 況	業種
建設業	建築資材が高騰し、技術者が不足している。	一般土木建築工事業
	コロナと戦争でどんどん景気が悪くなっております。	瓦斯機器、暖房空調工事業
	新年度を控え、発注が減少する。	土木工事業
	仕入単価の高騰はいろいろな物に影響している。鉄筋の値上がり幅はますます大きくなり、残土処分や、生コンの単価にも大きな影響が出ており、4月から取引先に単価の値上げを頼まざるをえない。ただ、お願いはするが、反映されるかが不安である。	とび
	景気回復よりもまずはコロナ対策と、本当に困っている業界へのフォローだと思います。飲食店ばかりサポートして、その関連会社はサポート無しなんてどう考えても間違っている。今後、建設業界はアスベスト問題で大きく変化をするので、そのサポート（補助金など）をして欲しい。国が認めた建材としてアスベストを使用してきたのに、解体・改修工事は、調査から処理まで費用、工期がこれまでより掛かってしまう。国に補助金の仕組みを作ることをお願いしたいものです。	塗装工事業
	原油高などで、豊材料も仕入れ価格が上昇。いつまで続くのか…。	畳工事請負・畳製造販売業
	半導体不足、資源・燃料価格高騰に加え、紛争問題と中国のゼロコロナ政策が追加され、先行きが全く見通せなくなってきた。	機械・同部品製造業
	化粧品容器の受注（口紅容器）に回復の兆しが全く見られない。頼りの医療品容器に関しても軟調で先行き不安でいっぱいだ。	プラスチック加工
	依然としてコロナ禍の深刻な影響を受け、業績の悪化が続いている。また、半導体関連顧客からの注文も途絶えており、深刻な業績不振が続いている。	電子応用装置製造業
	コロナウイルスの影響で原油価格が上昇、プラスチック原料の価格が上がった所へ、ロシアのウクライナ侵攻で今までにない値上がりになっております。	プラスチック成型
	新型コロナウイルスによるまん延防止等重点措置が3月21日まで延長されたことにより、引き続き出荷量は減少となった。重点措置が解除される直前より上向きとはなっているが、まだまだ厳しい状況は継続すると思われる。また、原材料や電気料金やガス料金等の値上がりも経営に大きく関係している。生産性の向上等にて固定費の削減等が重要になってくる。	酒類製造業

【業種別】業界内トピックス

製造業	原料、光熱費が上昇し利益を圧迫し始めている。まん延防止等重点措置が解除し、国内観光が活発になれば売上に期待ができる。製品に価格転嫁しにくい状況は変わらない。	鉄鋼業
	職種によるのか、回復の見通しは不明である。	印刷業
	材料の紙の値上がりと売上額の伸び悩みで、苦しい年度末の月でした。	印刷業
	材料仕入れ価格の上昇が止まらない。売値値上げが認められた矢先から材料値上げがあり、利益確保が困難だ。	金属製品
	新型コロナウイルスによる影響で、一部の輸入材の不足や高騰により売上の機会損失や生産コストの上昇が起きている上に、ロシア・ウクライナ紛争が起き、今後更に燃料費や電気料金の値上げが懸念される。DX等、生産性向上策を逐次行っているが、コストアップに追い付いていない。業績の良い大企業を中心に、大幅な賃上げを実施しているところもあるが、先行きが見通せない状況にあって、賃上げ自体厳しい状況になっている。	自動車付属品製造業
	電子デバイス不足による、注文を受けても装置関連の部品納期が半年以上先で、納品が出来ず入金が無く、現状は全て持ち出し状態で早急に安定した内容の案件に切り替えすることで動いています。	検査装置・光学設計、機械設計
	柏市場での対飲食店向け取引はもはや全体の5%ほどである。一方で一般消費者の来店が増え、現金取引はそちらのほうが多い。以前として弊社の売上の大半は量販店向け卸売で、スーパーや百貨店テナントのテイクアウト寿司店が主となっている。その他、道の駅や直売所の売上が伸びており、輸出やEC販売も調子は良い。今後、近い将来、売り先のシフト、業態転換が迫られるときが来ると思うが、売上が安定している現段階で様々な準備をしていきたい。	農畜産物・水産物卸売業
	早く正常に戻ってほしい。	大型小売店
	まん延防止等重点措置が解除されてからは客数が増えて上向き傾向。購入する商品もお出掛けを連想させる物(お出掛け着、靴、バックなど)の動向が良い。ネットスーパーは好調をキープしていたが人が外に出始めて来たため鈍化している。SDGs関連の商品を強化しているが一定数のお客様には支持を得ている。	大型小売店
	活気は戻ったが、飲食関連では原材料等の値上げにより厳しい状況。客足が戻ったところへ値上げはしたくない。	各種商品小売業
	ひな祭りの売上げが前年比増。	洋菓子店

【業種別】業界内トピックス

卸・小売業	まん延防止等重点措置が解除されたが、飲食業種のディナー需要回復が遅い。中期視点的に、コロナ以降の消費構造変化に対応した事業展開（営業時間や業種構成など）や、SDGsに対応した事業展開、また、エリアにおける施設役割の再構築を検討している。	各種商品小売業
	仕入価格が軒並み高騰しており適正な利益が取りづらくなっている。電気料の上昇も顕著で利益を圧迫している。為替に関しても円安・ドル高は続くであろうことから、物価上昇の懸念があって悩ましい。	各種食料品小売業
	COVID-19の影響により、輸出先国がロックダウンや輸入規制を敷いている影響で輸出台数が激減している。仕入に関しては、半導体不足による新車納期の大幅遅延、またその影響で中古自動車相場の高騰継続、港湾費用及び船賃の高騰によりコストプッシュインフレが業界自体を襲っている。ロシアのデフォルト危機もあり、今後明るい未来はしばらくないと思われる。また岸田政権は、新しい社会主義を標榜している首相のため、海外からの投資も見込めないでしょう。	自動車卸売
	ロシアのウクライナ侵攻による世界の人々への精神面および経済活動へのマイナス影響を懸念。	特殊繊維製品卸
	この円安により、輸入水産物のコスト上昇で単価高が予想され、今後水産物の荷動きが鈍化する懸念がある。まん延防止が解除され外食需要に期待したが、思ったほど売れ口は良くない。	水産物卸売業
	6～8月以降が良くない気がします。	産業機械販売
	まん延防止等重点措置の影響で売上減少が続いている。感染者数は高止まりしているため、客足の戻りが鈍いが4月以降の感染者数減少に期待。	日本料理
サービス業	入居者の入れ替えに伴う設備、資材を含むリフォーム代の上昇を懸念しています。	不動産賃貸・管理業
	相続案件や資産整理による売却等が増加。また、賃貸入居者の方でも広い住まいに転居したいという購入希望が増えている。	不動産管理業
	コロナの影響でイベント&レンタル業が全然ありません。	不動産代理業・仲介業
	コロナの感染拡大のため、新年度の生徒募集時期にチラシを撒くことができなかった。ここにきて漸く新規の問い合わせの動きが出てきたが、この時期に宣伝ができなかったことで年間を通じてどれほどの影響があるのか不安。	学習塾
	柏市全体で経済状況は衰退していると思います。	情報処理・提供サービス
	ちばSDGsパートナーへ登録。当社ホームページにも掲載。	ビルメンテナンス
	環境展出典の助勢並びに大気汚染装置の更新助勢などアドバイザー的業務で現況は安定。	工場機械設置の営業支援

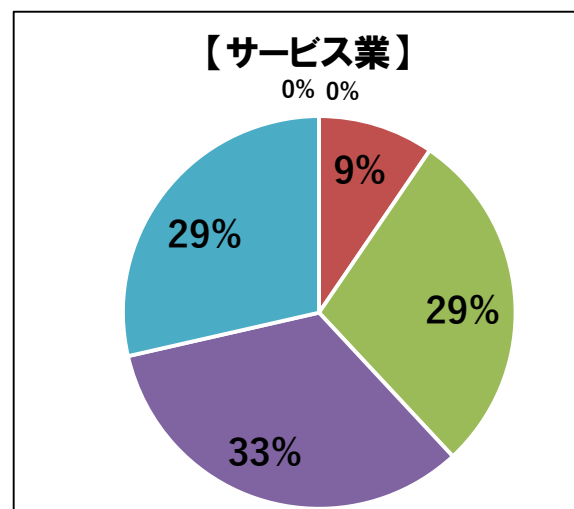
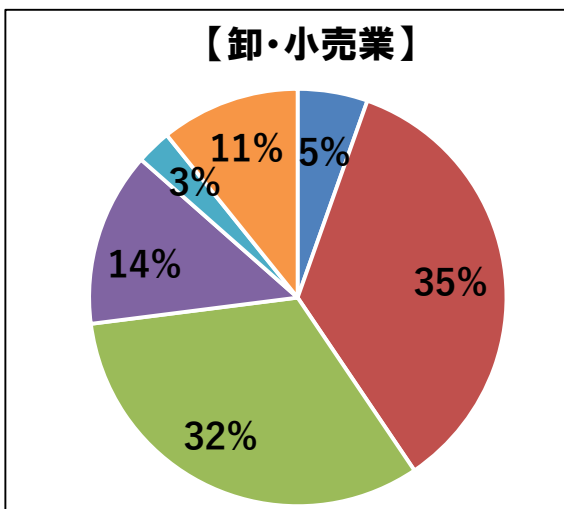
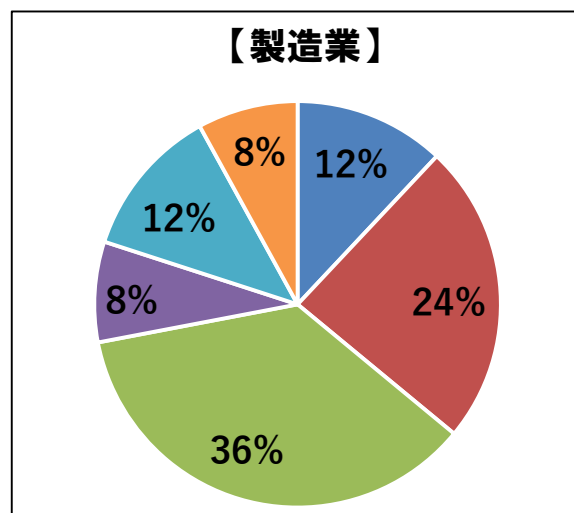
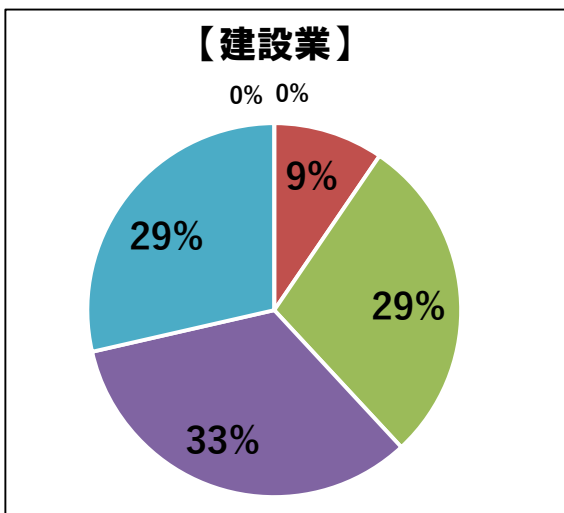
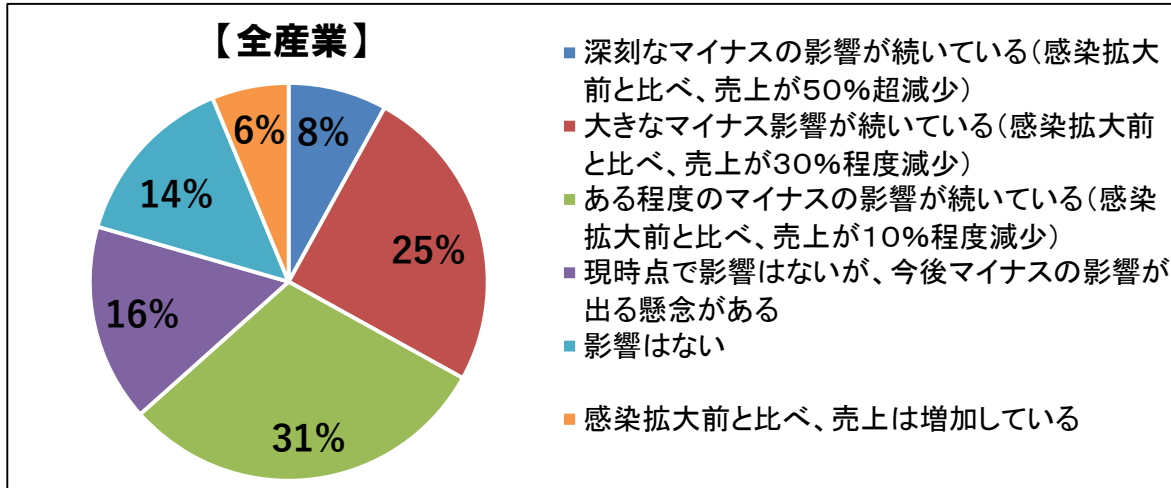
【業種別】 業界内トピックス

	<p>好転の見通しがあったものの、不確実性や不安定な様子は依然として強く懸念されています。</p>	日本語教育
	<p>小学生や未就学児に広がるコロナの蔓延を懸念。また、戦争等による仕入価格の値上がりがある。</p>	飲食・その他サービス
	<p>昨年10月から2年間続いた50%減の状況から回復の兆しを見せるが、4月の見込み数が鈍化している気がする。</p>	室内装飾業
	<p>お客様状況も悪化している模様。資材の高騰やその入手遅れが影響しているかもしれない。</p>	経営コンサル

附帯調査結果

新型コロナウイルス感染症の影響について

○新型コロナウイルス感染拡大前と比べた、今月の売上について



調査要領

調査期間

令和4年3月25日 ～ 令和4年4月3日

調査対象

柏市内157事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	157	112	71.3%
建設	34	21	61.8%
製造	38	25	65.8%
卸・小売	48	37	77.1%
サービス	37	29	78.4%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 う3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				